

令和8年度 春学期
授業評価アンケート結果

令和8年9月30日
滋賀文教短期大学

1. 目次

ページ	内容
1	1. 目次
1	2. 授業アンケートについて
2	3. 授業アンケート質問項目
3	4. 授業アンケート集計結果
4	(1) 全学
5	(2) 国文学科 2 年生
6	(3) 子ども学科 2 年生
7	5. 全学的考察
7	(1) 授業アンケート結果について
7	(2) 授業の質向上のために
8	6. 国文学科全体の考察
8	(1) 授業アンケート結果について
8	(2) 授業の質向上のために
9	7. 子ども学科全体の考察
9	(1) 授業アンケート結果について
11	(2) 授業の質向上のために
11	8. 授業アンケート回答率の推移

2. 授業アンケートについて

■概要

本学では、実習科目を除く全科目の 14 回目または 15 回目で約 10 分程度の時間を設け、授業アンケートを実施している。学生は、学生ポータルサイトからアンケートに無記名式で回答する。

■実施期間

学年暦において 14 回目または 15 回目の授業内で実施する。

全学年全学科共、令和 8 年 7 月 6 日～8 月 12 日に実施した。

■授業アンケートの活用

授業アンケートの集計結果（学務課教務担当による集計）、科目レベルの学修成果の査定結果（授業アンケートによる学生の達成実感度と科目 GPA による査定）の主に 2 点をふまえて、授業検討票に省察を記録する。

本学の科目レベルの査定においては、学生の達成実感度 60%以上かつ、科目 GPA が 2.00 から 3.00 までのときを、望ましい水準とアセスメント・プランに定めている。

これらをふまえて、科目担当教員は授業に関してどのような工夫をすれば学生がより学修成果を獲得できるかを検討し、次年度に向けたシラバス改善案を記録する。

さらに、全科目の授業アンケート結果や授業検討票をもとに、各学科の総評を学科長が、全学的総評を FD 委員長が行う。このような取り組みにより、科目レベルだけでなく組織的に授業のさらなる質向上に努めている。

授業アンケートの結果は、概要を本学ホームページで過去 3 年間分、学生ポータルサイトで自由記述欄以外の数値を公開している。また、授業検討票は閉架式にて学務課教務にて保管し、閲覧希望者に開示している。

3. 授業アンケート質問項目

選択式の質問 1～8 は回答必須とし、自由記述欄である質問 9 については任意による回答とした。
質問と回答の選択肢を下記に引用する。

1. あなたは、この授業の到達目標がどのくらい達成できましたか。【単一選択式】

シラバス記載の到達目標のうち、関連するディプロマポリシーにおいてカリキュラムマップ上で二重丸がついているものが科目担当教員から学生に 1 つだけ提示されます。

- ①達成できた ②おおむね達成できた ③達成できなかった

2. 授業内容は興味・関心が持てましたか。【単一選択式】

- ①非常にそう思う ②そう思う ③どちらでもない ④そう思わない ⑤全くそう思わない

3. 授業内容をよく理解できましたか。【単一選択式】

- ①非常にそう思う ②そう思う ③どちらでもない ④そう思わない ⑤全くそう思わない

4. この授業はシラバスに沿った内容でしたか。【単一選択式】

- ①非常にそう思う ②そう思う ③どちらでもない ④そう思わない ⑤全くそう思わない

5. 学生の理解を促す工夫がなされていましたか。【単一選択式】

(言葉による説明だけではなく、適切な資料、板書等の活用、グループワーク)

- ①非常にそう思う ②そう思う ③どちらでもない ④そう思わない ⑤全くそう思わない

6. 工夫してほしいと感じたことを選んでください。【複数選択式】

- ①私語への対応 ②聞き取りやすい話し方 ③教科書・配布資料の活用
④分かりやすいパワーポイントや板書 ⑤特になし

7. 教員は学生の理解や反応を見ながら授業を進めていましたか。【単一選択式】

- ①非常にそう思う ②そう思う ③どちらでもない ④そう思わない ⑤全くそう思わない

8. あなたは、この授業の予修・復修など自主学修に 1 週間あたりどのくらいかけましたか。【単一選択式】

※授業に間接的に関係のある学修を含む。学内外を問わず、授業時間以外の時間を回答（ピアノ練習、基礎プロ準備、実習準備等）

- ①3 時間以上 ②2 時間以上 3 時間未満 ③1 時間以上 2 時間未満
④30 分以上 1 時間未満 ⑤30 分未満

9. あなたがこの授業を受ける中で感じた良かった点や改善してほしい点があれば、記述してください。

(特に記述することが無い場合は空欄のままでも問題ありません)

自由記述欄

4 - (1). 授業アンケート集計結果 (全学)

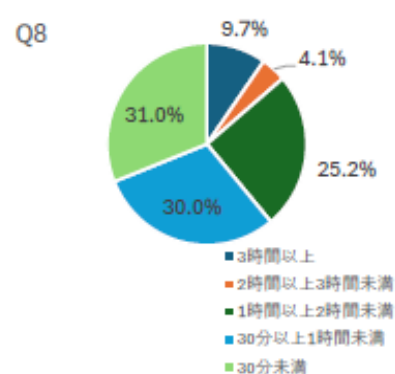
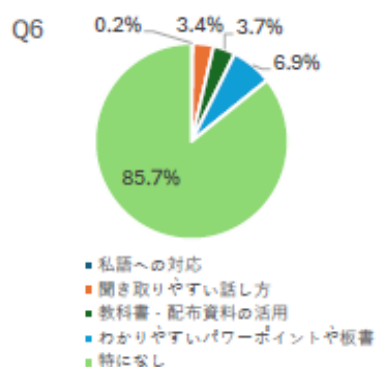
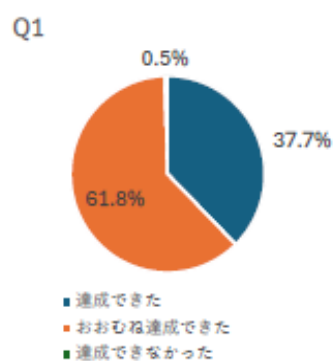
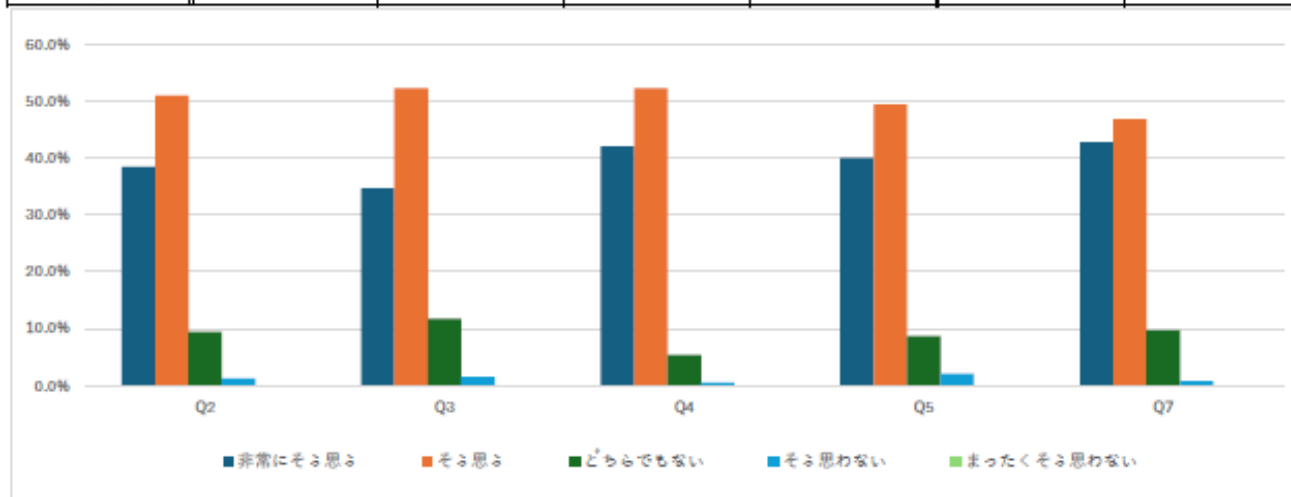
●全体 集計

受講人数	回収数	回収率
419	393	93.8%

*延べ数

	1	2	3	4	5	計
Q1	148	243	2	-	-	393
Q2	151	200	37	5	0	393
Q3	136	205	46	6	0	393
Q4	165	205	21	2	0	393
Q5	157	194	34	8	0	393
Q6	1	14	15	28	348	406
Q7	168	184	38	3	0	393
Q8	38	16	99	118	122	393

	1	2	3	4	5	計
Q1	37.7%	61.8%	0.5%	-	-	100.0%
Q2	38.4%	50.9%	9.4%	1.3%	0.0%	100.0%
Q3	34.6%	52.2%	11.7%	1.5%	0.0%	100.0%
Q4	42.0%	52.2%	5.3%	0.5%	0.0%	100.0%
Q5	39.9%	49.4%	8.7%	2.0%	0.0%	100.0%
Q6	0.2%	3.4%	3.7%	6.9%	85.7%	100.0%
Q7	42.7%	46.8%	9.7%	0.8%	0.0%	100.0%
Q8	9.7%	4.1%	25.2%	30.0%	31.0%	100.0%



4－(2)．授業アンケート集計結果（国文学科2年生）

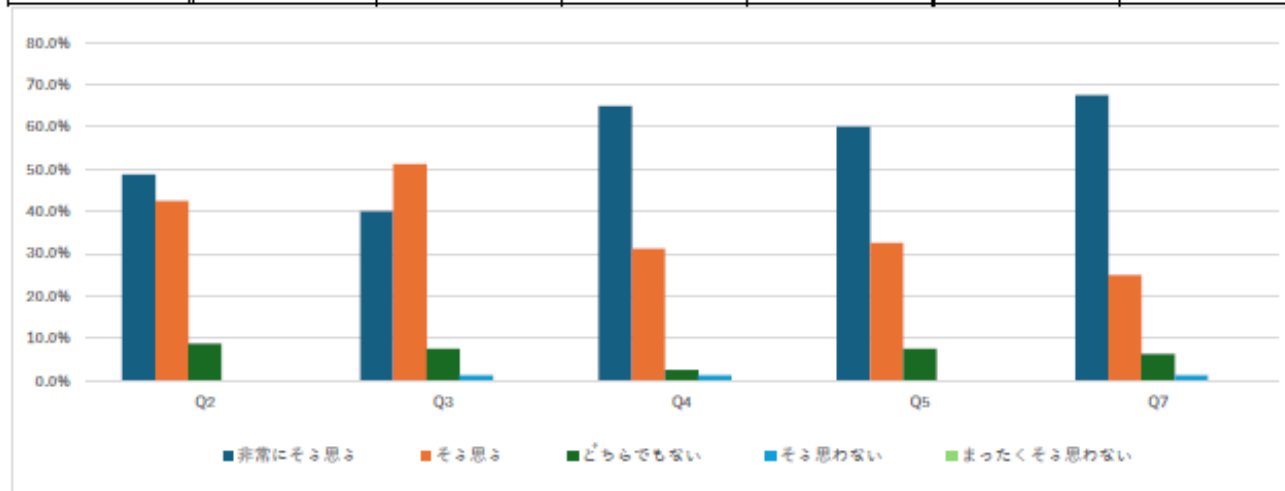
●国文学科2年次生集計

受講人数	回収数	回収率
82	80	97.6%

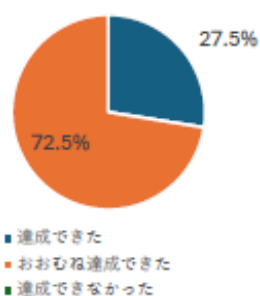
*延べ数

	1	2	3	4	5	計
Q1	22	58	0	-	-	80
Q2	39	34	7	0	0	80
Q3	32	41	6	1	0	80
Q4	52	25	2	1	0	80
Q5	48	26	6	0	0	80
Q6	0	1	3	3	74	81
Q7	54	20	5	1	0	80
Q8	3	0	20	36	21	80

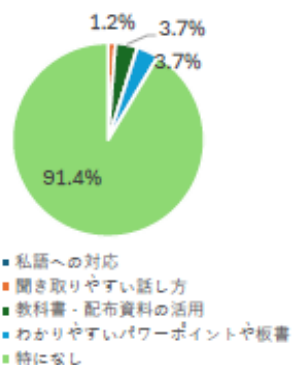
	1	2	3	4	5	計
Q1	27.5%	72.5%	0.0%	-	-	100.0%
Q2	48.8%	42.5%	8.8%	0.0%	0.0%	100.0%
Q3	40.0%	51.3%	7.5%	1.3%	0.0%	100.0%
Q4	65.0%	31.3%	2.5%	1.3%	0.0%	100.0%
Q5	60.0%	32.5%	7.5%	0.0%	0.0%	100.0%
Q6	0.0%	1.2%	3.7%	3.7%	91.4%	100.0%
Q7	67.5%	25.0%	6.3%	1.3%	0.0%	100.0%
Q8	3.8%	0.0%	25.0%	45.0%	26.3%	100.0%



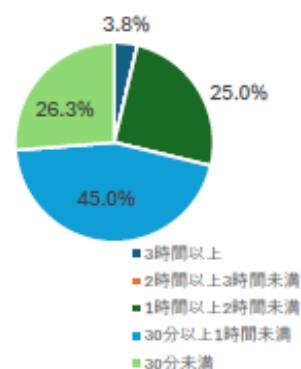
Q1



Q6



Q8



4 - (3). 授業アンケート集計結果 (子ども学科2年生)

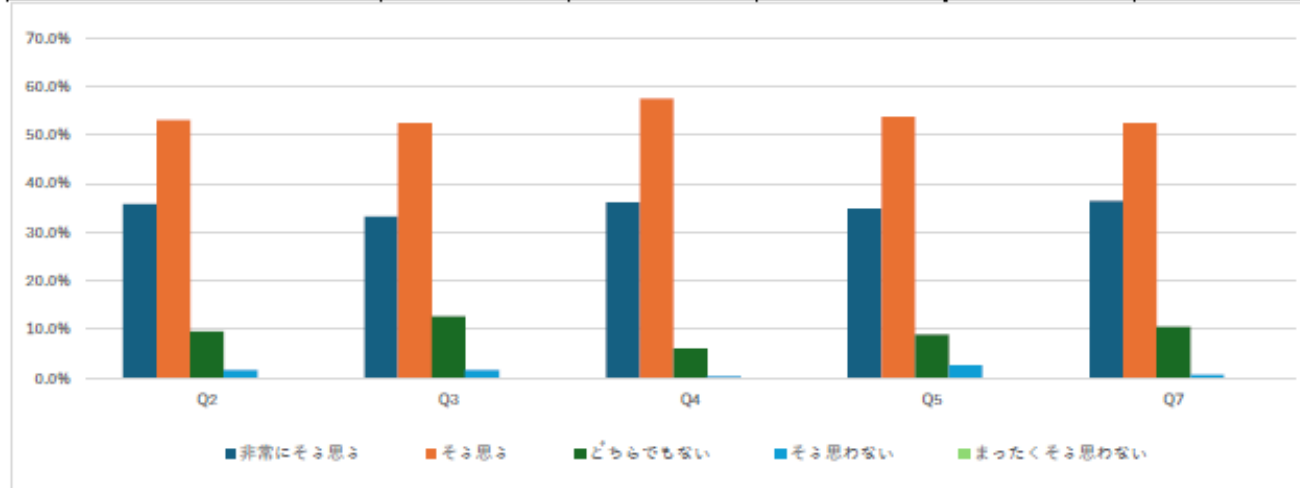
●子ども学科2年次生集計

受講人数	回収数	回収率
337	313	92.9%

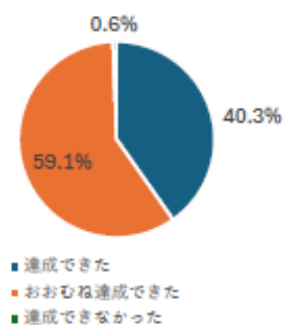
* 延べ数

	1	2	3	4	5	計
Q1	126	185	2	-	-	313
Q2	112	166	30	5	0	313
Q3	104	164	40	5	0	313
Q4	113	180	19	1	0	313
Q5	109	168	28	8	0	313
Q6	1	13	12	25	274	325
Q7	114	164	33	2	0	313
Q8	35	16	79	82	101	313

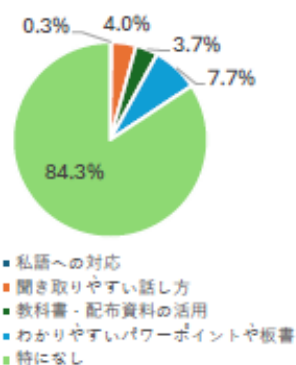
	1	2	3	4	5	計
Q1	40.3%	59.1%	0.6%	-	-	100.0%
Q2	35.8%	53.0%	9.6%	1.6%	0.0%	100.0%
Q3	33.2%	52.4%	12.8%	1.6%	0.0%	100.0%
Q4	36.1%	57.5%	6.1%	0.3%	0.0%	100.0%
Q5	34.8%	53.7%	8.9%	2.6%	0.0%	100.0%
Q6	0.3%	4.0%	3.7%	7.7%	84.3%	100.0%
Q7	36.4%	52.4%	10.5%	0.6%	0.0%	100.0%
Q8	11.2%	5.1%	25.2%	26.2%	32.3%	100.0%



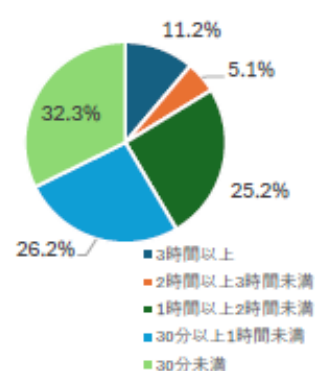
Q1



Q6



Q8



5－（１）．全学的考察（授業アンケート結果について）

今期も昨年度の春学期と同様、8 項目の授業アンケートと自由記述を行った。ここでは、その中の 5 項目のアンケート結果を中心に考察する。

質問項目（１）あなたは、この授業の到達目標がどのくらい達成できましたか。

	達成できた	おおむね達成できた	合計
令和 6 年度春学期	42.4%	55.6%	98.0%
令和 6 年度秋学期	39.2%	59.7%	98.9%
令和 7 年度春学期	37.1%	60.9%	98.0%
令和 7 年度秋学期	32.7%	60.8%	93.5%
令和 8 年度春学期	37.7%	61.8%	99.5%

「達成できた」と回答した学生は、昨年度同期の春学期とほぼ同じ値であるが、「おおむね達成できた」との合計は、1.5 ポイント上昇し、これまで最高であった令和 6 年度を超える高い数値となった。

質問項目（２）授業内容は興味・関心が持てましたか。

	非常にそう思う	そう思う	合計
令和 6 年度春学期	47.5%	44.7%	92.2%
令和 6 年度秋学期	45.1%	48.4%	93.5%
令和 7 年度春学期	41.2%	50.4%	91.6%
令和 7 年度秋学期	32.8%	50.5%	83.3%
令和 8 年度春学期	38.4%	50.9%	89.3%

「非常にそう思う」と回答した学生は、昨年度同期の春学期から 2.8 ポイント減少した。「そう思う」との合計もほぼ同様の割合で減少したが、継続的に 9 割近くの学生が興味・関心をもって参加することができている。

質問項目（３）授業内容をよく理解できましたか。

	非常にそう思う	そう思う	合計
令和 6 年度春学期	37.6%	50.8%	88.4%
令和 6 年度秋学期	36.0%	54.8%	90.8%
令和 7 年度春学期	33.1%	55.8%	88.9%
令和 7 年度秋学期	27.7%	52.5%	80.2%
令和 8 年度春学期	34.6%	52.2%	86.8%

「非常にそう思う」と回答した学生は、昨年度同期の春学期から 1.5 ポイント上昇し、「そう思う」との合計もほぼ同様の割合で上昇、例年通りの高い数値を保っている。今後も、学生のより深い理解を促す工夫を重ねていく必要がある。

質問項目（５）学生の理解を促す工夫がなされていましたか。（言葉による説明だけではなく、適切な資料、板書等の活用、グループワーク）

	非常にそう思う	そう思う	合計
令和 6 年度春学期	46.5%	44.7%	91.2%
令和 6 年度秋学期	42.4%	46.9%	89.3%
令和 7 年度春学期	41.3%	47.7%	89.0%
令和 7 年度秋学期	34.9%	47.3%	82.2%
令和 8 年度春学期	39.9%	49.4%	89.3%

「非常にそう思う」と回答した学生は、昨年度同期の春学期から 1.4 ポイント減少したが、「そう思う」との

合計においてはわずかに上昇し高い数値を維持している。教員の授業改善の工夫が結果に反映されていることが伺える。

質問項目（８）あなたは、この授業の予修・復修など自主学修に１週間あたりどのくらいかけましたか。

※授業に間接的に関係のある学修を含む。学内外を問わず、授業時間以外の時間を回答（例 ピアノ練習、基礎プロ準備、実習準備等）

	3 時間以上	2 時間以上 3 時間未満	1 時間以上 2 時間未満	30 分以上 1 時間未満	30 分未満
令和 6 年度春学期	4.7%	3.7%	14.2%	30.0%	47.5%
令和 6 年度秋学期	6.2%	4.9%	12.0%	23.7%	53.3%
令和 7 年度春学期	3.8%	4.2%	12.4%	28.9%	50.7%
令和 7 年度秋学期	7.2%	4.8%	11.7%	24.2%	52.0%
令和 8 年度春学期	9.7%	4.1%	25.2%	30.0%	31.0%

自主学修時間が「3 時間以上」の学生は、昨年度同期と比べると 5.9 ポイント上昇した一方、「30 分未満」が昨年度同期より 19.7 ポイント減少しており、良い傾向を示している。今後も課題の内容や自主学修の仕方などを丁寧に指導していく必要がある。

5－（２）．全学的考察（授業の質向上のために）

質問項目（１）の到達目標の達成度について、99.5%の学生が「達成できた」「おおむね達成できた」と答える結果となり、過去最高となった。質問項目（２）（３）（５）についても、ほぼ例年通りの高い数値を示している。講義形式の授業だけでなく、グループワークやプレゼンテーションへの主体的な参加を促す授業や、様々な資料や ICT 機器を活用した授業など、学生が学習成果を確実に獲得するための工夫が各授業になされていることが反映されたものと考えられる。一方、学生の自己評価だけではなく、客観的な評価を合わせて授業を振り返り、教育改善の手立てを考え続ける姿勢が引き続き教員に求められる。

自主学修時間（質問項目（８））においては、「30 分未満」の学生の割合が 4 割以上を占めていることが長年の課題であったが、今回は 31.0%となり改善されている。秋学期も、個々の学生の学修意欲を高め、学修習慣の定着を図る取組と工夫が望まれる。

令和 8 年度は、国文学科、子ども学科の両学科で学科別 FD 研修会を実施し、学生からの意見聴取を踏まえた授業改善の検討を行った。研修会の内容を秋学期の授業に活用し、大学全体として教育の質の向上を図りたい。

6－（１）．国文学科全体の考察（授業アンケート結果について）

本学は今年度末で閉学を迎えるため、今年度は 2 年生しか在籍していない。そのため、これまでの授業アンケートおよびその考察は対象者が 2 年生のみであり、例年とは大きく異なっていることを最初に述べておく。

さて、令和 8 年度春学期の授業アンケートにおいて、国文学科全体の授業内容の理解度については、肯定的な回答が多く、大変高い水準を示した。

質問項目（３）「授業内容をよく理解できましたか」について、「非常にそう思う」「そう思う」および両者の合計を過去 5 年間の同時期（2 年生）と比べると次のようになる。

【表 1】	非常にそう思う	そう思う	両者の合計
令和 4 年度春学期	18.3%	57.7%	76.0%
令和 5 年度春学期	39.4%	50.8%	90.2%
令和 6 年度春学期	24.2%	62.1%	86.3%
令和 7 年度春学期	27.2%	60.1%	88.3%
令和 8 年度春学期	40.0%	51.3%	91.3%

「非常にそう思う」「そう思う」の合計は91.3%であり、過去5年間で最も高い数値となった。この5年間で見ると、今年に次いで「非常にそう思う」「そう思う」の回答が多いのは令和5年度であるが、その年と比べても「非常にそう思う」「そう思う」ともに僅差であるが今年度が上回っている。特に「非常にそう思う」は40.0%と、例年（令和5年度を除く）の数値を大幅に上回っている。授業内容の理解について、学生の自己評価は過去5年間、高い水準で推移しており、授業における教員の工夫や学生の学修への取組が一定の成果につながっていると考えられるが、今年度はその傾向がとりわけ顕著であると言える。

同じ質問項目（3）を、1年前と比較したのが次の表2である。

【表2】	非常にそう思う	そう思う	両者の合計
1年次	40.0%	49.5%	89.5%
2年次	40.0%	51.3%	91.3%

1年次と2年次の回答にほとんど変化が見られないことがわかる。

以上のように、現在在籍している2年生については、①授業の理解度について、よく理解できているという自己認識の者が非常に多いこと、②その傾向は1年春学期の段階から見られ、大きな変化はないこと、がわかる。

質問項目（8）の学習時間について、過去5年間の同時期（2年生）を比較したものが以下の通りである。

【表3】	3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満
令和4年度春学期	15.9%	8.2%	18.3%	27.4%	30.3%
令和5年度春学期	3.1%	3.6%	21.8%	30.1%	41.5%
令和6年度春学期	6.5%	7.8%	23.5%	20.3%	41.8%
令和7年度春学期	0.6%	7.4%	14.1%	44.8%	33.1%
令和8年度春学期	3.8%	0.0%	25.0%	45.0%	26.3%

過去5年間の2年春学期における学習時間を見ると、2時間以上学習しているとの回答が今年度は3.8%と非常に少ない（「3時間以上」と「2時間以上3時間未満」の合計）。令和4年の24.1%、令和5年の6.7%、令和6年の14.3%、令和7年の8.0%と比較して圧倒的に低い数値である。

同じ質問項目（8）を、今年度対象者の1年春学期と比較したのが次の表4である。

【表4】	3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満
1年次	0.0%	2.1%	14.7%	63.2%	20.0%
2年次	3.8%	0.0%	25.0%	45.0%	26.3%

1年次と比較すると、1時間未満が1年次83.2%、2年次71.3%と今年度は約12%減少し、代わりに1時間以上2時間未満が14.7%から25.0%と約10%増加している。授業外の学習時間をほとんど持たない状態から、若干の改善が見られると言ってよいだろう。ただし、1年生春学期に比べると、2年生は課題や発表など授業外学習が必要な科目が多いため、本来は学習時間量が多くなる。そのことから考えると学習時間は元々少ない上に伸びも十分ではない。

6－（2）. 国文学科全体の考察（授業の質向上のために）

本学期においては、質問項目（3）の授業内容理解度に関する肯定回答の割合が91.3%となり、過去5年間で最も高い数値を記録した。また、「非常にそう思う」は40.0%と高い割合を示している。これまでの授業改善の取組が、学生の授業理解に関する肯定的な自己評価につながっているものと考えられる。

授業理解度の肯定回答が91.3%と高い水準にある一方、授業外学習では「30分以上1時間未満」が45.0%と最も多く、「30分未満」も26.3%を占めている。授業理解度の自己認識の高さを実際の学修成果につなげるためにも、授業外での学修をどのように充実させるかが課題である。

最も大きな問題は、学生の自己評価と実態との大きな乖離である。先に見たように、授業の理解度についての学生自身の自己評価は非常に高い。しかし実際に授業を担当している教員側から見ると、今年度の学生は学習成果を十分に獲得していない者が大半である。学習時間が過去の学生と比べても少ないこと、遅刻や欠席が過去の学生と比べて非常に多いこと、こうしたことや、担任面談その他による情報収集から見えてくるのは、今年度の学生のうち多くの者が生活習慣が乱れており、また学修習慣が身につけていない現状である。課題を期日までに提出しない、準備不足により不十分な報告を行ったり発表をすっぱかしたりする、連絡がとれない、1年次からの伸びが見られない、これが実情なのである。そうした実態と、授業理解度や到達目標達成度といったアンケート項目の自己評価の高さとは、非常に乖離していると言わざるを得ない。

成人している学生に対し、大学の教職員が生活習慣の改善や学習の習慣づけを行うことは難しい。プレゼンテーション、レポート作成等に関する指導の充実や、学生が授業外でも主体的に学ぶことができる課題設定などをさらに進めることは、あくまでも学習習慣定着のための枝葉の部分であり、学生自身が主体的に学習しようという姿勢を持つことが根幹・土台である。また教員にできることとしては、授業外学修時間の「量」を増やすのではなく、短時間でも効果的に学修できる方法を示すことが考えられるが、言うは易く行うは難い。

「授業の質の向上」のためには、教員が授業に対して創意工夫のある取組を継続するとともに、教員間で授業実践を共有する機会を充実させることが不可欠である。研修や授業参観等を通して、他の教員・他の授業で行われている工夫を共有し、それぞれの授業改善に生かしていくことが期待される。また、学生の情報を教員間で共有することには以前から力を入れているが、より一層注力することが「授業の質の向上」、ひいては学生自身の学習成果獲得に一定程度繋がると考えられる。

7- (1). 子ども学科全体の考察（授業アンケート結果について）

①授業アンケート結果について

質問項目 2、質問項目 3、質問項目 5 について、3 年間の推移を比較してみると、次のような結果であった。

質問項目 2：授業内容に関心が持てたか

	非常にそう思う	そう思う	両者の合計
令和 6 年度春学期	47.6%	43.9%	91.5%
令和 7 年度春学期	40.1%	51.0%	91.1%
令和 8 年度春学期	35.8%	53.0%	88.8%

質問項目 3：授業内容が理解できた

	非常にそう思う	そう思う	両者の合計
令和 6 年度春学期	44.0%	45.4%	89.4%
令和 7 年度春学期	33.2%	55.7%	88.9%
令和 8 年度春学期	33.2%	52.4%	85.6%

質問項目 5：授業に工夫があった

	非常にそう思う	そう思う	両者の合計
令和 6 年度春学期	48.2%	42.0%	90.2%
令和 7 年度春学期	40.0%	48.1%	88.1%
令和 8 年度春学期	34.8%	53.7%	88.5%

本年度は、2 年生のみの調査であり対象が変わってきているものの、どの項目についても、ここ数年高い評価を示す結果がでている。9 割前後の学生が、授業内容への関心が高く、意欲的に学ぼうとする姿勢が見られ、授業内容も理解できているととらえている。

過去 3 年間の推移を見ると、「非常にそう思う」と回答した学生が、年々減少している。前年度と比較すると、今学期の「非常にそう思う」と回答した学生は、授業内容への関心では 4.3 ポイント減少、授業の工夫は 5.2 ポ

イント減少した。

今学期も、学生の授業内容への関心を高めるために、グループワークや体験活動等の充実を図ってきた。しかしながら、学生の中にはグループワーク等を苦手とする者や学生間の人間関係に不安や不満を抱く者も見られ、不安な気持ちをもって授業に臨む学生がいることにも配慮していく必要がある。

②学生の学修時間について

次に、「当該授業に関する授業外学修時間(週)」について、5年間の経緯を比較してみると、次のような結果であった。

質問項目 8：当該授業に関する授業外学修時間(週)

	3時間 以上	2時間以上～ 3時間未満	1時間以上～ 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満
令和4年度 春学期	4.3%	2.8%	10.8%	21.7%	60.5%
令和5年度 春学期	3.5%	3.0%	9.9%	19.7%	63.9%
令和6年度 春学期	5.1%	3.4%	12.3%	26.1%	53.1%
令和7年度 春学期	4.8%	3.8%	11.9%	22.8%	56.8%
令和8年度 春学期	11.2%	5.1%	25.2%	26.2%	32.3%

1週間あたりの自主学修の時間は、前年度の春学期と比較すると大きく改善が見られた。今学期は、「3時間以上」と回答した学生は前年度より6.4ポイント増加し、「30分未満」と回答した学生が前年度より24.5ポイント減少した。

また、前年度春学期の1・2年生と今年度春学期の2年生の「当該授業に関する授業外学修時間(週)」を比較すると、次のような結果となった。

令和7年度 春学期	3時間 以上	2時間以上～ 3時間未満	1時間以上～ 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満
子ども学科 1年生	4.1%	4.3%	15.1%	29.1%	47.5%
子ども学科 2年生	5.5%	3.3%	8.4%	15.9%	67.0%

令和8年度 春学期	3時間 以上	2時間以上～ 3時間未満	1時間以上～ 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満
子ども学科 1年生	—	—	—	—	—
子ども学科 2年生	11.2%	5.1%	25.2%	26.2%	32.3%

2年生の結果を昨年度1年生時と比較すると、「3時間以上」と回答した学生が7.1ポイントも増加している。昨年度の2年生と比較しても、5.7ポイント増加している。また、「30分未満」と回答した学生は、1年生時と比較で15.2ポイント減少し3割程度となり、かなりの改善が見られた。2年生の春学期は、3週間の教育実習で大学での授業が中断する時期もあり、生活リズムの変化や授業への集中が途切れる学期である。そうした中でのこのような結果は、大きな成果といえる。学生にこの成果を伝え、残りの秋学期の授業においても、授業で出された課題に対して学びを再度ふり返り、自分で調べたり考えたりして、学びを確かなものにしていくことを促し、主体的な学びの姿勢を大切にするよう指導していきたい。また、教員一人ひとりが事前事後の学習を含めた課題の出し方を工夫するとともに、卒業後も見据え、今後も学生に求められる学びの姿勢として引き続き指導していきたい。

③前年度または前学期の授業アンケート考察時から改善されたことについて

授業の質的な向上に向けた取り組みの成果は継続されており、学生のアンケート結果として着実に出ています。特

に今学期は、2年生で「当該授業に関する授業外学修時間(週)」に大きな改善が見られた。教員は、学生の実情を把握し、アクティブラーニングや体験的活動等を実践していく力量をより一層身につける必要性や、学生の学びの姿勢を育成することの重要性を自覚できたと思う。

残り秋学期となったが、引き続き、学生の学習に対する意欲や関心、また不安な気持ちについての把握に努め、本学としてのアクティブラーニングの充実に努めていきたい。

7- (2). 子ども学科全体の考察 (授業の質向上のために)

PROG や教学 IR の学修成果の査定結果をもとに、目の前の学生に力をつけていくためには、日々、授業改善を意識して取り組むことが重要である。秋学期も引き続き、学科として、「授業の質の向上」の取組みを進め、グループワークや体験授業等アクティブラーニングを取り入れた授業実践を、様々な授業形態において進めていきたい。

学科目標に掲げている「授業の質の向上」を最後まで推進するためにも、教員が授業に対して創意工夫のある取組みを充実することが重要である。授業改善に係る学生からの意見を踏まえ、FD 研修会での積極的な協議・交流を行うなど学科での研修の機会を充実していきたい。併せて、学生の学ぶ意欲、保育士資格や教員免許等を取得するという強い意志を育て、主体的な学習態度、困難や不安を乗り越える力の育成にも最後まで粘り強く取り組んでいきたい。

8. 授業アンケート回答率の推移

本学では、令和元(2019)年度より電子媒体である学生ポータルサイト (Campus Plan portal) を利用して授業アンケートを実施している。本学では授業アンケートは無記名式の回答である。

今学期と過去3年間について、回答率の推移を学科・学年別に比較する。

	国文学科		子ども学科		全学	
	回収率	回収/受講	回収率	回収/受講	回収率	回収/受講
令和5年度春学期	98.9%	447/452	84.6%	884/1045	88.9%	1331/1497
令和5年度秋学期	88.8%	358/403	79.0%	728/921	82.0%	1086/1324
令和6年度春学期	94.5%	433/458	95.9%	962/1003	95.5%	1395/1461
令和6年度秋学期	89.6%	369/412	97.4%	834/856	94.9%	1203/1268
令和7年度春学期	88.7%	258/291	94.4%	945/1001	93.1%	1203/1292
令和7年度秋学期	89.5%	214/239	94.0%	740/787	93.0%	954/1026
令和8年度春学期	97.6%	80/82	92.9%	313/337	93.8%	393/419
平均・合計	92.4%	2159/2337	90.9%	5406/5950	91.3%	7565/8287

全体として回収率が93～95%と高く推移しており、授業アンケートに対する学生の意識は向上していると思われる。

秋学期も学生が安心して回答できるよう、授業アンケートは無記名式かつ電子媒体での実施を継続する予定である。

以上